

唐丹文芸

「わびわび」詠草

唐丹短歌会

生涯を漁師にてすごせし亡き夫の思いをたぐる碧き海原
冬枯れのさつきの青い芽かすかにも生命見出せる今朝のよろこび

川原 セイ

冬ざれのうすき陽射しの窓の辺に亡妹愛でし欄の花咲く
咲いたからおいでと電話かけたくて空しさに泣く雲厚き冬日

須貝 美佐子

誰も来ぬ祝の形なくもよし夫と迎えるわが誕生日
悔はなし耐えがたきこと多かりし雨音聞きつつ夫と語れり

大津 秀子

春なれば我が周りを吹きし風清しくあれと野面のちふみしむ
雪とけて軒打つ音のトレモロに心にしみきて目覚む暁

上野 ウタ子

生かされて人それぞれの荷を負いて花と咲かせて露と消えゆく
とくしまの夢おいかけてつまものを知恵・技・心で宴に輝やく

磯崎 彬

病む夫を見取りし夜に見る夢は復員の日の遅ましきまま
山茶花の香りの中に眠る夫癒えづく日々を寝息安けく

環 あき

海を愛でし父病みてより十六年釣具置かれて遺品となりぬ
母逝きて六十年の歳月のなかりしごとき夜半の満月
人を刺す刃のごとき暴言を聞きたる会議のあとの虚しさ

高橋 昌子

※注、31号にて高橋昌子様の短歌二首の掲載洩れがありましたことお詫び申し上げます。

梅花講員の募集

私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。
私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくります。

梅花講の日時

毎月17日 午後1時 盛岩寺本堂にて
第4日曜日 午後1時 盛岩寺本堂にて

お申し込みは下記へ連絡下さい

55-2167番(長根節子) 55-5174番(盛岩寺)